



風の学校の子どもたち

林原玉枝
絵 高垣真理

① あしたがたのしみ

ぶなの木にかこまれた森の中に、風のこどもの学校があります。
あさ、いちばんに、ぶんぶんせんせいは、こどもたちの名前をよびます。

「ぶぶう、びぶう、ざわわ、そより、ひゆるる」

「はいっ」「はいっ」「はあい」「はい」「はい」

みんな、そろって、げんきなへんじです。

「おはよう。きょうも、みんな、よくきましたね」

ぶんぶんせんせいは、こどもたちのおを みまわして、うれしそうです。

「きょうは、たんぼほの、わたげとぼしの、れんしゅうを

します」

「わあい」

たんぼほのわたげとぼし、ときいて、風のこどもたちは、こおどりました。こどもたちの、だれもが、いちばんやつてみたい、しごとだからです。

「はじめに、せんせいが、やつてみせますからね、ようく、みててください」

ぶんぶんせんせいは、そういうと、くさはらのむこうにある、たんぼほの 白いふわふわした わたげの玉めがけて、びゅーっと、いきおいよく、とんでいきました。

せんせいが、ぶつかると、白くすきとおった、わたげの玉が、ふるるっとくずれて、たくさんのわたげが、いっせいに空へとんでいきます。